

6.12 県民防災の日



# 大地震の発生に備え

6月12日は県民防災の日です。今から27年前、昭和53年6月12日に発生した宮城県沖地震では、市内でも大きな被害を受けました。当時の記憶が薄れつつある中、平成15年5月26日の三陸南地震、同年7月26日の宮城県北部連続地震は、地震災害の恐ろしさをあらためて認識されました。

特に、午後6時24分頃発生した三陸南地震は、気仙沼市沖約20㌔、深さ約70㌔を震源地とするマグニチュード7.0、震度6弱というもので、宮城県沖地震とほぼ同じ規模のものでした。

この地震では、大きな人的被害はなかったものの、配水管破損、壁の亀裂や一般住宅のブロック塀破損、墓石の倒壊など、各地で多くの被害が発生しました。

発生した時間帯が、夕食の支度時間に重なっていたにもかかわらず、幸いにも火災などの二次災害は発生しませんでした。これは、昭和53年の

宮城県沖地震を教訓とした「地震のときは火を消すこと」の防災意識が徹底できたからだと推測できます。

地震が起きたときに一番大切なのは、まず自分の身を守ることです。慌てて屋外に飛び出さず、揺れが収まってから落ち着いて避難してください。また、火災を起こさないために、すばやくガスコンロやストーブなどの火を消しましょう。

地震についての知識や備えは、それを現場で生かす力があって初めて役に立ちます。災害から家族や地域を守るためには、適切に対処できる防災行動を身につけておくことが大切です。特に防災訓練などを通して、自分の体で覚えたことは、災害時の大きな力になります。

「いざい」というときに備え、正しい行動が取れるよう、防災に関する行事には積極的に参加し、「防災」を身近なものにしましょう。

# 災害への備え、しっかりと

## 一人ひとりが防災の主役

### 災害時に身を 守るポイント

災害時に身を守るために、次のポイントをしつかりと覚えましょう。

- 非常持ち出し品を準備する
- 家具の転倒防止など家の中の安全を確保する
- 防災訓練に参加する
- 家族で防災について話し合う
- 災害発生時
- 身の安全を最優先する
- 慌てずに落ち着いて火の始末をする
- 安全な場所に避難する
- 被災後
- 正しい情報入手する
- 協力し合って、消火・救出・応急救護をする

### 被災したときに 欠かせないもの

被災したときには、次のようなものが欠かせません。普段から準備しておきましょう。

#### 非常持ち出し品

避難するときに持ち出す必需品は、あまり欲張りすぎず最小限にすることがポイントです。男性で15歳、女性なら10歳程度を目安として、リュックサックなどに、ひと

つにまとめておきましょう。

- 非常用食品（缶詰・乾パン・ビスケットなど調理不用なもの）

- 飲料水
- 携帯ラジオ（予備の乾電池）
- 懐中電灯・ろうそく
- ライター・マッチ
- 救急医薬品・常用薬・生理用品
- 日用品（洗面用具・ティッシュペーパー・せっけんなど）
- 毛布・シート
- 衣類・雨具・軍手
- ハンカチ・タオル
- ヘルメット（防災ずきん）
- ナイフ・缶切り・栓抜き
- ビニール袋・ビニールシート



いざという時のために備えておきましょう

- 文房具（メモ帳・ペン）
- 貴重品（印鑑・預金通帳・保険証・免許証・現金）

#### 非常備蓄品

災害復旧までの数日間を支えるもので、一人最低でも3日分、できれば5日分を用意しておき、また被害を受けにくく、外から取り出しやすい場所にまとめておくことが大切です。

- 食料品（米・レトルトパック食品、カップ麺・梅干し・調味料・菓子類）
- 飲料水（一人1日3リットルが目安。日ごろからこまめに取り替えましょう）
- 固形燃料か卓上コンロ（ガスボンベは多めに用意）

### 災害用伝言ダイヤル



地震や大雨などの災害発生時には、特定地域への電話連絡の殺到が予想されます。災害用伝言ダイヤルは、被災地への電話がかかりにくい状態になったときでも、被災地内の家族、親せき、知人などに安否の確認や緊急連絡を取れるようにするものです。

※音声案内に従い使用してください。伝言を吹き込む・伝言を聞くことができます。

災害時は、一般電話が繋がりにくくなります。安否の確認や連絡は、公衆電話、災害用伝言ダイヤルを活用しましょう。

### 市内で防災訓練を実施します

災害はいつどこで起きるか誰にもわかりません。災害時には皆さんの協力がものをいいます。いざという時のために、積極的に参加しましょう。

■ 防災に関する問い合わせ先  
総務部防災課 ☎0220 (22) 2130